

児童文庫版『坊っちゃん』に見る言い換え表現のバリエーション ——複数の児童文学叢書との比較を通して——

湯 浅 千映子

論文要旨

夏目漱石『坊っちゃん』(明治39年)と主に2010年代に出版された講談社青い鳥文庫など5種の児童文学叢書を分析資料に、原作を児童向けに言い換えた箇所を抽出・比較し、書き手が児童という特定の読み手への配慮を言語表現上はどう反映させ、児童にとっての読みやすさや作品への親しみをどのように醸成させるのかを探った。

本稿では、児童向けに言い換える前の原作の語句に着目し、その語句の難易度を測る尺度に天野・近藤編(2003)の「単語親密度」、国立国語研究所(2009)の「教育基本語彙」の「語彙配当」などを用いて、児童文庫版の種々の言い換えを、言い換える要因により分類した。まず、原作と児童文庫版の執筆時期に百年以上の隔りがあり、現代の大人一般にとっても難しいため言い換える「時代差」がある。次に、読者対象の児童にとって未習で難しいため言い換える「年齢差」がある。

その他、原作で多義語の派生的な意味の方を使った言い換え(例「(壱円札を)改める」→「確認する」)、原作の共起する語句の組み合わせが一般的でない言い換え(例「(家を)こしらえる」→「たてる」)、原作の「談判(する)」を各場面に合わせた多様な表現(「交渉する」、「話し合う」、「掛け合う」、「問答」など)で書き分けるといった特徴が見られた。

キーワード【言い換え、教育基本語彙、単語親密度、『分類語彙表』、リーダビリティ】

1 はじめに

児童文学の書き手は、読者対象となる「児童」を、自身とは年齢的にも知識量の面でも異なる存在だと認識して作品を書いている。こうした認識が、広く「一般」を読者対象とする原作とは別の表現に言い換える素地となるだろう。中村(1993:66)は、「文章を読む相手をどう意識するかに応じて働きかけの姿勢に差が生じ、それが言語表現の面に反映する」とし、文章表現の性格を規定する条件の一つに、小説と童話、大人と子供といった「読者層」・「読者対象」の問題があることを指摘した。

以下は、夏目金之助著『坊っちゃん』の原作(岩波書店『漱石全集 第二集』)と6種の児童文学叢書(以下、児童文庫版)と1種の日本語学習用読み物で、対応する箇所の記述を比較したものである¹⁾。

「坊っちゃん 二」

この部屋かいと大きな声がするので目が覚めたら、山嵐が這入つて来た。最前は失敬、君の受持ちは……と人が起き上がるや否や談判を開かれたので大に狼狽した。受持ちを聞いて見ると別段六づかしい事もなさうだから承知した。此位な事なら、明後日は愚、明日から始めろと云つたつて驚ろかない。授業上の打ち合せが済んだら、君はいつ迄こんな宿屋に居る積りでもあるまい、僕がいゝ下宿を周旋してやるから移り玉へ。外のものでは承知しないが僕が話せばすぐ出来る。早い方がいゝから、今日見て、あす移つて、あさつてから学校へ行けば極りがいゝと一人で呑み込んで居る。

『漱石全集 第二集 倫敦塔ほか・坊っちゃん』岩波書店

「第二編 ぼっちゃん、先生となる あいさつまわり」

「このへやかい。」
と、大きな声がするので、目がさめたら、山あらしがはいってきた。
「さっきは、しつぱい。きみの受け持ちは……。」
と、人が起きあがるやいなや、だんぱんをひらかれたので、おおいにあわてた。受け持ちを聞いてみると、べつだんむずかしいこともなさうだから、しょうちした。このくらのことなら、あさつてはおろか、あすからはじめろといったつておどろかない。授業上のうちあわせがすんだら、
「きみは、いつまでこんな宿屋にいるつもりでもあるまい。ぼくがいい下宿をせわしてやるからうつりたまえ。ほかのものではしょうちしないが、ぼくが話せばすぐできる。早いほうがいいから、きょう見て、あすうつつて、あさつてから学校へいけばきまりがいい。」
と、一人でのみこんでいる。

『坊っちゃん (新装版) (講談社青い鳥文庫)』

「第一章 先生になった」

「この部屋かい？」
と大きな声がするので目がさめたら、山嵐が入ってきた。
「さっきは失礼、きみの受け持ちは……」
と人が起き上がるやいなや話をはじめたので、とてもびっくりした。
受け持ちを聞いてみると、べつにむずかしいこともなさうだから、承知した。このくらのことなら、あさつてはおろか、あしたからはじめろといったつて、驚ろかない。
授業の打ちあわせがすんだら、
「きみはいつまでもこんな旅館にいるつもりでもあるまい、ぼくがいい下宿を紹介してやるからうつりたまえ。ほかのものでは承知しないが、ぼくが話せばすぐできる。早いほうがいいから、きょう見て、あした移つて、あさつてから学校へ行けばきりがいい」と一人で決めている。

『坊っちゃん (集英社みらい文庫)』

「二、坊っちゃんは、教師にあだ名をつける。校長はたぬき。教頭は赤シャツ。数学の教師は山嵐。英語はうらなり。美術は野だいこ。どんな教師になるのかな？坊っちゃん。」

すると、
「この部屋かい」
と、大きな声がするので目がさめたら、山嵐が入ってきた。
「先ほどは失礼、きみの受持ちは……」
と、人が起きあがるやいなや、話を始めたのでおおいに狼狽した。受持ちを聞いてみると、とくにむずかしいこともなさうだから承知した。このくらのことなら、明後日はおろか、明日から始めろと言つたつておどろかない。
打ちあわせがすんだら、
「きみは、いつまでもこんな宿屋にいるつもりでもあるまい、僕がいい下宿を紹介してやるからうつりたまえ。ほかの者では承知しないが、僕が話せばすぐできる。早いほうがいいから、今日見て、明日移つ

て、明後日から学校へ行けば決まりがいい」と、一人で納得している。

『坊っちゃん（角川つばさ文庫）』

「2 学校の先生になって四国へ」

「この部屋かい」と大きな声があるので目がさめたら、山嵐が入ってきた。「先ほどは失敬、きみの受け持ちは」と、人が起きあがるとすぐに話をはじめたので、とてもあわてふためいた。

受け持ちを聞いてみると、べつにむずかしいこともなさそうだから承知した。

このくらいのことなら、あさってどころか、「明日からはじめろ」といったって、驚かない。

授業上の打ち合わせがすんだら、

「きみは、いつまでもこんな宿屋にいるつもりでもあるまい。ぼくが、いい下宿を紹介してやるから移りたまえ。ほかの者では承知しないが、ぼくが話せばすぐできる。早いほうがいいから、今日見て、明日移って、あさってから学校へ行けばきまりがいい」とひとりで納得している。

『小学館ジュニア文庫 世界名作シリーズ 坊っちゃん』

「3 タヌキ校長、赤シャツ教頭」

「この部屋かい。」

と、大きな声があるので目がさめたら、山嵐が入ってきた。

「さきほどは失礼、きみの受け持ちは……。」

と、いきなり打ち合わせをはじめた。それがすむと、いった。

「ぼくがいい下宿をしようかいるから、そこにうつりたまえ。今日見て、あしたうつって、あさってから学校へ行けば、つこうがいい。」

『10歳までに読みたい日本名作9 坊っちゃん』学研プラス

「二 あいさつ」

このへやかいと大きな声があるので目がさめたら、やまあらしがはいってきた。さいぜんはしっけい、きみの受け持ちは……と人が起きあがるやいなや談判をひらかれたのでおおいにろうばいした。

受け持ちを聞いてみるとべつだんむずかしいこともなさそうだからしょうちした。このくらいのことなら、あさってはおるか、あしたからはじめると言ったっておどろかない。授業上の打ち合わせがすんだら、きみはいつまでもこんな宿屋にいるつもりでもあるまい、ぼくがいい下宿を周旋してやるからうつりたまえ。ほかのものではしょうちしないがぼくが話せばすぐにできる。早いほうがいいから、きょう見て、あすうつって、あさってから学校へ行けばきまりがいいと一人でのみこんでいる。

2021年出版『ポブラキミノベル 坊っちゃん』ポブラ社

「二 「狸」「赤シャツ」「うらなり」「山嵐」「野だいこ」に会う」

大きな声があるので目が覚めたら、山嵐が部屋に入ってきた。突然、数学の授業の説明が始まったのでびっくりしたが、説明はすぐ終わった。山嵐は数学の主任なのだ。

「君、いつまでも宿屋に泊まっていられないだろう。ぼくがいい下宿を紹介するから、一緒に来なさい」と言うのでついていった。

2017年出版『レベル別多読ライブラリー（にほんごよむよむ文庫）坊っちゃん（上）』アスク出版

各資料に、読点を加える、会話文をかぎ括弧で改行する、ルビをふる、送り仮名をつける、現代仮名遣いにする、漢語を平仮名にするといった表記上の特徴が見られ、また、必要に応じて、接続語や指示語を追加したり、語句の解釈を付加したり、文や節を削除する。さらに、原作の「談判を開かれた」を「話をはじめた」や「打ち合わせをはじめる」に、「狼狽した」を「あわてた」・「びっくりした」・「あわてふためいた」に、「周旋してやる」を「せわして

やる」・「紹介してやる」にするとといった語句の言い換えもある。いずれの資料も一般向けの原作をもとにして、読者対象の属性に合わせ、表現を換えている。

本稿は、『坊っちゃん』の原作と、それをリライトした5種の児童文学叢書を分析資料とし、原作の表現とそれに対応する言い換え表現を比較することで、「児童」という特定の読み手への配慮をどう言語表現上に反映させ、何をもち「児童」とよつての「読みやすさ」を実現させるのか、児童文庫版の言い換えの実態を明らかにする²⁾。なお、児童文学叢書の全ての漢字にはルビが付されているが、2節以降の例では省略している。

2 先行研究

今野 (2016: 187) の『『坊っちゃん』の少年少女向けの書き換え』では、『漱石全集』(岩波書店)の『坊っちゃん』の原作と、1961年出版の『現代日本文学名作集』(講談社)『少年少女世界文学全集』四十八巻)の『坊っちゃん』のリライト版の表現を比較し、漢字を仮名に変える、会話文にかぎ括弧を付ける、改行するといった特徴のほか、原作の「無闇」を「むちゃ」に書き換えるなど、語句の違いを指摘する。また、「背戸(せど)」を、原作で「裏門、裏口」と注解を附し、リライト版で「勝手口」と書き換える例を挙げ、「語の使用が社会生活の変化に伴って変わるような場合は、注解が必要となる」とし、「(中略)少年少女のために書き換えることはごく自然のこと」とする。さらに、原作の漢語「サイエン(菜園)」をリライト版で和語の「やさいばたけ」、「レイラク(零落)して」を「おちぶれて」など、「わかりにくいと思われる漢語を和語にやわらげる」場合や「少しだけ異なる語形の語に書き換えている場合」(原作「カイヒン(海浜)」・リライト版「海岸」)があるという。一方、リライト版の書き換えの少なさに驚き、「原作の尊重という心性」、「原作に近いものを読むべき」考えがあったと分析する³⁾。図1に今野(2016)が指摘したリライト版(1961年)の表現と本論文が分析対象とする5種の児童文庫版の言い換え表現をまとめた。

図1 原作の語句と今野(2016)によるリライト版・5種の児童文庫版の言い換え表現

原作	「講」(1961)	「講」(2007)	「集」	「角」	「小」	「学」
無闇なこと	むちゃ	むちゃ	むちゃなこと	むちゃ	むちゃ	むちゃ
脊戸	勝手口	うら門	裏の木戸	裏の戸	家の裏口	—
へつつい	かまど	へつつい(かまど)	台所	台所	台所	かまど
後架	便所	便所	便所	便器	便所	便所
菜園	やさいばたけ (野菜畑)	やさい畑	菜園	菜園	菜園	菜園(※注 野菜畑)
零落して	おちぶれて	おちぶれて	おちぶれて	落ちぶれて	落ちぶれて	落ちぶれて
周旋	せわ(世話)	せわ	紹介	紹介	紹介	しょうかい
金満家	金持ち	金満家(金持ち)	金持ち	金満家	金持ち	金持ち
随意に	かつてに	思うままに	すぎに	自由に	好きに	すぎに
処置	やりかた	やりかた	処置	処置	処置	—
海浜	海岸	海浜	海辺	海辺	海辺	—

ポケット	ポケット	ポケット	ポケット	ポケット	ポケット	—
ブラットフォーム	ブラットホーム	ブラットホーム	ホーム	ブラットフォーム	ホーム	—

成田 (2008) は、『坊っちゃん』の作品中に「ハイカラ」・「パイプ」・「ダイヤモンド」・「マッチ箱」などの「カタカナ表記語 (外来語固有名詞・外来語普通名詞など)」異なり 57 語があるとし、それらを語種で分類し、語種と字種の関係について述べている。本稿で扱う 5 種の児童文庫版では、原作の「ズックの革靴」を「布のかばん」(「集」・「角」・「小」)、「フランネル」を「ウール」(「集」)・「毛織物」(「小」)、「ケット」を「毛布」(「角」・「小」) と言い換えたり、原作の「セピア色」に「黒っぽい茶色」(「講」・「学」) と注解を付ける例が見られた。

中村 (2013: 7-14) では、『坊っちゃん』の笑いとユーモア表現について、「せっかちで向こう意気の強い主人公の坊っちゃんが、俗語や方言、江戸後期の流行語まで駆使して、しゃべるように書いた、その語りの調子がリズムカルで、読んでいて愉快的な気分ひたれる」とし、具体的な笑いを誘う手段として、「対立的な意味のことばを対置させる (七音と五音の快い調子)」／「倒置して反復する技法」／「前辞反復の連鎖 (尻取り文)」／「次から次へと接続詞も指示語もなしに短文をただ並べる」／「同じ人間を (略) そのつど呼び分ける」(例「ぼこぼん先生」・「ぼこぼん君」・「此大将」)／「文末表現が多彩になり、軽快なテンポで響く」(例「…て居る。…事がある。…かも知れぬ。…でもない。…やーい。)」／「突飛的なイメージの直喩表現」／「江戸っ子の啾吟 (例「顔のなかを御祭りでも通りやしまいし)」／「空想をもてあそんでいる箇所」／「方言を使う (例「そりや、イナゴぞな、もし)」／「音の縁だけでつなぎ、意味的に横道にそれる」(例「マドンナだらうが、子旦那だらうが)」／「意味の関連から (例「今日様所か明日様にも明後日様にも)」／「誇張や大げさな言い方」／「もってまわった言い方」(例「席順はいつでも下から勘定する方が便利であつた)」などの特徴を挙げている。

以下の図 2 は、中村 (2013) が指摘した、おかしみを誘い出す大きな働きをする①「擬人的な文脈」、違和感がおかしさをかきたてる②「読者の予測を裏切る用語をあえて交ぜる」、文調が躍動的になる③「オノマトペの活用」について、『坊っちゃん』の原作とそれに該当する 5 種の児童文庫版の例である⁴⁾。

図 2 中村 (2013) によるユーモア表現と児童文庫版の言い換え表現

<p>①「擬人的な文脈」</p> <p>(1) 「其上山城屋では一週間許り逗留して居る。宿屋丈に手紙迄泊る積なんだらう。」【七】</p> <p>→ 「とまっている」講／「滞在している」集・小</p> <p>②「読者の予測を裏切る用語を交ぜる」</p> <p>(2) 「山嵐の机の上は白墨が一本豎に寝て居る丈で閑静なものだ。」【六】</p> <p>→ 「しずかなものだ」講／「静かなものだ」角／「ひっそりとしたものだ」集／「ひっそりと静かなもの</p>

だ」**小**

(3) 「僕のうち迄来てくれと云ふから、惜しいと思つたが温泉行きを欠勤して四時頃出掛けて行つた。」

【八】

→ 「休んで」**講・角・小**

(4) 「不審に思つたのか (略) 呆れ返つたのか、又は双方合併したのか、」【八】

→ 「(二つが) いっしょになつたのか」**講** / 「(両方が) 合わさつたのか」**角** / 「(両方が) 合体したのか」

(5) 「学校を休んだ杯などと云われちや一生の名折れだから、飯を食つていの一号に出頭した」【十一】

→ 「出勤した」**集・角・小** / 「登校した」**学**

③ 「オノマトへの活用」

(6) 「清の事を考へながら、のつそつして居ると、突然おれの頭の上で、…」【四】

→ 「からだをのぼしたりそつたりしていると」**講** / 「寝返りをうったりしていると」**集** / 「ごろごろしている」と**角・小**

(7) 「おれが教頭で、赤シャツがおれだつたら、矢張りおれにへけつけ御世辞を使つて赤シャツを冷かすに違ない。」【五】

→ 「へこへこ」**集・小**

3 分析資料

本稿の調査資料は、原作の 1994 年版『漱石全集 第二集』(岩波書店)と 5 種の児童文学叢書である。本稿が扱うのは、主に 2010 年代に出版された以下の 5 作品である⁵⁾。

2007 年初版 (新装版)	講 談社青い鳥文庫『坊っちゃん』(福田清人編) 小学上級から →以下「講」
2011 年初版	集 英社みらい文庫『坊っちゃん』(森川成美編) 小学中級から →以下「集」
2013 年初版	角 川つばさ文庫『坊っちゃん』(後路好章編) 小学上級から →以下「角」
2017 年初版	小 学館ジュニア文庫『坊っちゃん』(竹中はる美編) 高学年以上対象 →以下「小」
2017 年初版	学 研プラス『10 歳までに読みたい日本名作 9 坊っちゃん』(文・芝田勝茂) →以下「学」

「講」・「集」・「角」・「小」の児童文学叢書では、原作の抄訳ではなく、原作を逐語的に言い換えている。10 歳以下の小学校中学年向けの「学」では、原作の語句の言い換えだけでなく、文や節、段落の大幅な省略や章末の語釈の付記など、原作からの変更が多く見られる。「講」を除く 4 種の児童文学叢書の巻頭には、劇画風のイラストに解説を添えた「主な登場人物紹介」のページがあり、また、「学」では、本文中にもカラーの挿絵イラストを多用し、児童が知らない事物や概念 (例「むてつぼう」・「かまど (原作はへつつい)」) も、イラストを見て、作品世界を理解させる一助としていた。

これら 5 種の児童文学叢書の表現と原作の表現を比較し、両者間の言い換えて、原作の動詞と意味・文脈の上で対応し、表現が異なる言い換えのペアを抽出した。ここでは、『坊っちゃん』の原作で動詞 1 語で表し (例「逗留する」)、児童文庫版で異なる動詞で対応させる

(例「とまる」・「滞在する」) 計 508 組を対象に分析を行った。ここで、動詞の言い換えを分析対象としたのは、動詞で同じ事態を表す場合、一つの表現に固定されることなく、多種多様な表現に置き換え可能であることによる。

4 分析の観点と分析方法

本稿では、児童文庫版『坊っちゃん』で言い換える前の原作の動詞に着目する。なぜ原作で用いた動詞を、児童にとって理解が難しいと判断し、それを児童にも理解可能な、やさしい(とされる)表現に言い換えたのか、原作の動詞に焦点を当てることで、児童向けの言い換えるの要因を探っていく。

『坊っちゃん』第一章の一部を抜粋した以下の例を見てみよう。

ある時将棋をさしたら卑怯な待駒をして、人が困ると嬉しさうに冷やかした。あんまり腹が立つたから、手に在った飛車を眉間へ擲きつけてやつた。眉間が割れて少々血が出た。兄がおやぢに言付けた。おやぢがおれを勘当すると言ひ出した。其時はもう仕方がないと観念して先方の云ふ通り勘当される積りで居たら、十年來召し使つて居る清と云ふ下女が、泣きながらおやぢに託まつて、漸くおやぢの怒りが解けた。(略) 此下女はもと由緒のあるものだつたさうだが、瓦解のときに零落して、つい奉公迄する様になつたのだと聞いて居る。【一】

『坊っちゃん』の原作の動詞の表現に対し、5種の児童文庫叢書では次のような言い換えが見られた。

- ① 「さしたら」→「したら」**集**・「やってみたら」**角**
- ② 「(待駒を) して」→「(ひきょうな手を) 使つて」**集**・**角**・**小**
- ③ 「(眉間が) 割れて」→「(皮膚が) 切れて」**集**・**小**
- ④ 「言付けた」→「いいつけた」**講**・**角**・**小**・**学** / 「言いつけた」**集**
- ⑤ 「勘当する」→「親子の縁を切る」**集**・**小**・**学** ⑥ 「勘当される」→「親子の縁を切られる」**集**・**小**
- ⑦ 「観念して」→「あきらめて」**講**・**集** / 「かくごしていたら」**学**
- ⑧ 「零落して」→「落ちぶれて」**角**・**小**・**学** / 「おちぶれて」**講**・**集**

こうした言い換えは、原作の動詞自体に備わる単語のタイプによって、言い換える要因が異なってくるものと推測される。その要因は、次の3点にあると考えた。

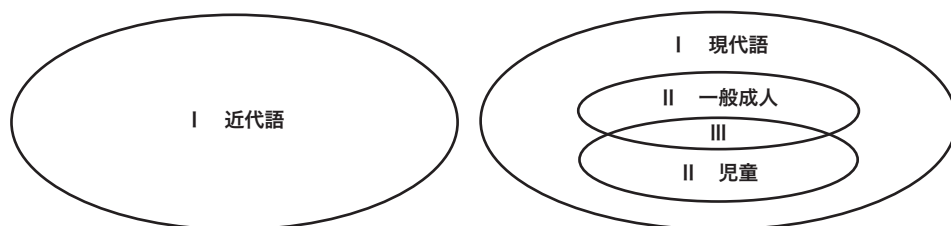
- I 「(作品の) 時代差」…近代語として存在し、現代語では使われなくなり、一般成人にも理解できない語句を言い換える(例「零落する」→「落ちぶれる」)
- II 「(読者対象の) 年齢差」…現代語として使われているが、一般成人には理解されても、児童には理解できない語句を言い換える(例「観念する」→「あきらめる」)
- III 「時代差」・「年齢差」によらない言い換え…一般成人が理解可能で、児童にとっても理解可能な語であるが、言い換える(例「さす」→「する」・「やる」 / 「する」→「使う」)

I 「(作品の) 時代差」に関しては、明治39年に発表された『坊っちゃん』と、主に2010年代に新たに刊行された児童文庫叢書の執筆時期の間に百年以上の隔りがあり、原作の語句が現代の大人一般にとっても理解が難しく、そうした語句の注釈が必要となり、時代のずれを克服するために言い換えたものと思われる。その上で、Iに該当しない語句は、II 「(読者対象の) 年齢差」として導き出される。読者対象である「児童」にとって未習の語句で、児童が読む際に理解できないため、言い換えた語句がこれに相当する。

田中(1999:1)は、「地域的差異」や「時代的差異」とは別に、社会的な集団や階層、表現上の様式や場面それぞれにみられる言語の特有な様相(=「位相」)に基づく言語上の差異を「位相差」と呼んだ。田中(1999:2-3)によると、地域的差異や時代的差異が一つのまとまりのある言語的体系として存在し、各地の方言や各時代の言語の間で対立を見せるのとは異なり、「位相差」は、「同時代・同一言語的世界における、差異であり対立」であるとし、共通部分をもつ、「交わり(隣接)」の要素を含んだ上での対立であるという。

この場合、「I(作品の)時代差」によって言い換えた語句は、原作の語句との間に「近代語(明治末期)」と「現代語(2010年代)」の対立があり、「II(読者対象の)年齢差」によって言い換えた場合、読者対象の「一般成人」には理解可能で「児童」には理解が困難な語と、「児童」が理解可能な語という緩やかな対立が存在する。さらに、このIやIIの要因に該当しない言い換え表現として、IIIの要因を取り出すことができる。

図2 『坊っちゃん』の児童文庫叢書の言い換えの3つのタイプ



本稿では、児童向けの言い換えに伴う形態上の変化(漢字不使用、カタカナ表記をはじめとする形式面と語種の変換)を見た上で、I「時代差」を明らかにするために、田野・近藤編(2003)の語のなじみの度合いを数値で測る「単語親密度」を用いて、近代に専ら用いられ、現代の一般成人にとってなじみがなく、難しい語を選別する。次段階として、II「年齢差」を明らかにするために、国立国語研究所(2009)の「学習段階別語彙配当」、甲斐・松川(2011)の「学習基本語彙」、工藤(1999)の「児童生徒を対象とする基本語彙」の以上3種の児童用教育基本語彙を用いて、児童にとって難しい語(一般成人にとってはやさしい語)を選別する。IとIIの段階を経て、残った語をIII「時代差・年齢差によらない言い換え」(現代語であり、児童にも理解可能な語でありながら言い換える語)とする。IIIについては、言い換え前と言い換えた後の動詞について、国立国語研究所(2004)の『分類

語彙表』の意味分類に基づき、両者の意味の一致度を見ることで、児童文庫版『坊っちゃん』の言い換えの特徴を明らかにする。

5 児童文学版への言い換えに伴う形式上の特徴

5-1 表記

①漢字の不使用とひらがな表記

(8)難船して死にやしないか杯と思つちや困るから、奮発して長いを書いてやった。【二】

⇒船が難破して死んでいないかなどと思っちゃ困るから、ふんぱつして、長いを書いてやった。〔**角**・**講**・**集**も「ふんぱつして」と表記〕

②カタカナ表記の語句の言い換え

(9)兄は実業家になるとか云つて頻りに英語を勉強して居た。【一】

⇒兄はビジネスマンになるとかいて、しきりに英語を勉強していた。〔**集**〕

(10)今迄葛練りの中で泳いでる様に身動きも出来なかつたのが、急に楽になつたと思つたら、【十】

⇒今までゼリーの中を泳いでるように身動きもできなかったのが、〔**角**〕

【その他のカタカナ表記で言い換える例】

「鉛筆ももつた。帳面も貰つた」【一】→「ノート」〔**集**・**角**〕〔**講**は、「ちょうめん」**学**は、「帳面」〕
〔※注 ノート〕

「白墨を持って教場へ出て行つた」【二】→「チョーク」〔**集**・**角**・**小**〕〔**講**は、「はくぼく」〕

「先づ書記の川村君に菟蓐版を配布させる」【六】→「プリント」〔**集**・**角**・**小**〕〔**講**は、「こんにやく版」〕

「丁度歯どめがなくちや自転車へ乗れないのと同程度ですからね」【五】

→「ブレーキ」〔**講**・**集**・**小**〕〔**角**は、「歯どめ」〕

「茶代をやらないと粗末に取り扱はれると聞いていた」【二】→「チップ」〔**集**・**角**〕〔**小**は、「こころづけ」**学**は、「茶代」〕〔※注 ここでは、旅館や飲食店で、とまるための費用以外に心づけ（お礼）としてわたすお金。チップ〕

「十日に一遍位の割で喧嘩をして居た」【一】→「ペース」〔**角**〕〔**集**は、「割合」、**講**・**小**は、「わり」〕

5-2 同じ品詞間・異なる品詞間の言い換え表現の対応

①同じ品詞間の言い換え表現（動詞以外）

(11)おれは其時から別段何になると云ふ了見もなかつた。【一】

⇒「考え」〔**講**・**集**・**角**・**小**〕

(12)例に似ぬ淡泊な処置が気に入つたから、礼を云つて貰つて置いた。【一】

⇒「さっぱりした」〔**講**〕／「さっぱりとした」〔**角**・**小**〕／「あっさりした」〔**集**〕

(13)夫からどこの学校へ這入らうと考へたが、学問は生来どれもこれも好きでない。【一】

⇒「もともと」〔**集**・**角**・**小**〕／「生まれつき」〔**講**〕

②異なる品詞間で言い換え表現が対応する例（動詞以外）

(14)うらなりが、そんなに厭がつてゐるなら、何故留任の運動をしてやらなかつたと聞いて見たら、【九】

⇒ 「ここにとどめようと」**集**・「ここにとどまれるよう」**角**「ここにとどまれるように」**小**

(15)おれが増給を断はつたと話したら、大将大きに喜んで流石江戸っ子だ、えらいと賞めてくれた。【九】

⇒ 「給料をあげてやるというのを、断った」と話したら、**集**・**小**

(16)あゝ云ふ狡い奴だから、芸者を先へよこして、後から忍んでくるかも知れない。【十一】

⇒ 「こっそり」**集**・**小**

③語と句で言い換え表現が対応する例

(17)正体の知れない時は多少気味が悪るかつたが、バツタと相場が極まつて見たら急に腹が立つた。【四】

⇒ 「わかってみたら」**集**・**小**「わかってからは」**角**

(18)御互に力にならうと思つて、是でも蔭ながら尽力して居るんですよ。【五】

⇒ 「力を尽くしている」**小**・「ちからをつくしている」**講**

④登場人物の発言や心内語を、疑問詞を含む会話体にする

(19)事実は既に諸君の御承知の通であるからして、善後策について腹藏のない事を参考の為に御述べ下さい【六】

⇒ どうすればよいか**集**/うまく後始末をつける策について**小**

(20)おれを見る度にこいつはどうせ碌なものにはならないと、おやじが云つた。乱暴で乱暴で行く先が案じられると母が云つた。成程碌なものにはならない。御覧の通りの始末である。行く先が案じられたのも無理はない。【一】

⇒ 「らんぼうでらんぼうで、いったいどうなってしまうのか」と母が言った。たしかにろくなものにはなっていない。見てのとおりである。将来を心配されたのもむりはない。**角**

(19)の原作の「善後策」は、「事件の後始末をつける方法」という意味である。これを「集」は、「どうすればよいか」と疑問詞を含む句にしている。(20)の原作は、同語反復の例で、「行き先が案じられる」・「行く先が案じられたのも」と心内語が続く。これを「角」では、「いったいどうなってしまうのか」・「将来を心配されたのもむりはない」とする。「心配する」という語句を反復させるよりも、一方を「いったいどうなってしまうのか」と、会話を引き写すことで、母が抱く思いを書き手が代弁し、登場人物の心理がより鮮明に浮かび上がる。

6 複数の児童文学叢書間の書き分けのバリエーション

ここでは、原作にある動詞に対し、複数の児童文学叢書で4つ以上の異なる表現に書き分ける例を取り上げる。21~24のような原作のある章に登場した動詞を複数の異なる表現で書き分ける例もあれば、25~27「吹聴する」、28・29「狼狽する」、30・31「放免する」、32~34「受け合う」といった、原作の中で複数の章にわたって登場する1動詞をそれぞれ文脈に即して異なる表現に書き分ける例も見られた。

①原作の一箇所に登場する動詞の言い換え表現

(21) おれが宿直部屋へ連れて来た奴を詰問し始めると、【四】

⇒「問いつめる」**学**／「問いつめはじめる」**集**／「問いただしはじめる」**角**／「厳しく問いただしはじめる」**小**「せめただしはじめる」**講**

(22) さう二三時間のうちに、特別の理由もないのに豹^{ひょうへん}変しちや、将来君の信用にかゝわる。【八】

⇒「変わっちゃ」**角**／「かわるようじゃ」**学**／「きゅうにかわっちゃ」**講**／「えらく変わっちゃ」**集**／「がらりと変わられちゃ」**小**

(23) かの不貞無節なる御^{おてんぱ}転婆を事実の上に於て慚死せしめん事を希望します。【九】

⇒「はじて死なしめん」**講**／「死ぬほど恥ずかしいと思わせてやる」**集**・「死ぬほど恥ずかしい思いをさせる」**小**／「見返してやる」**角**・「見返してやってください」**学**

(24) 夫もほかの人が遊ぶのを寛容するならいゝが、【十】

⇒「認める」**角**／「寛大に認める」**小**／「おおめに見る」**集**／「とがめだてしない」**講**

②「吹聴する」の言い換え

(25) 今に学校を卒業すると麴^{こうじまち}町辺へ屋敷を買つて役所へ通ふのだ採と吹聴した事もある。【一】

⇒「いいふらした」**講**・**小**

(26) 三人共申し合せた様にうらなり君の、良教師で好人物な事を吹聴して、【九】

⇒「いいふらして」**講**／「強調して」**集**／「語って」**角**・**小**

(27) ことに自分の弟が山嵐を誘ひ出したのを自分の過失であるかの如く吹聴して居た。【十一】

⇒「言いふらしていた」**角**／「いいひろめた」**小**／ふれまわっていた**集**

③「狼狽する」の言い換え

(28) 最前は失敬、君の受持ちは……人が起き上がるや否や談判を開かれたので大に狼狽した。【二】

⇒「あわてた」**講**／「びっくりした」**集**／「あわてふためいた」**小**

(29) 是から山嵐と談判する積だと云つたら、赤シャツは大に狼狽して、【六】

⇒「あわてて」**講**・**小**／「うるたえて」**集**・**角**

④「放免する」の言い換え

(30) 朝飯を食はないと時間に間に合はないから、早くしろと云つて寄生をみんな放免した。【四】

⇒「放してしまった」**集**／「おっぱなした」**講**／「解放した」**小**／「帰した」**学**

(31) 此様子ぢや寐^{ねくび}頸をかゝられても、半ば無意識だつて放免^{ほうめん}する積だらう。【六】

⇒「放してやる」**集**／「おっぱなす」**講**／「許す」**角**・**小**

⑤「受け合う」の言い換え

(32) 切れぬ事があるか、何でも切つて見せると受け合つた。【一】

⇒「保証した」**集**

(33) 僕も困るんだが、そんなにあなたが迷惑ならよませうと受け合つた。【六】

⇒「承知した」**小**／「うなずいた」**集**

(34) 受け合つた事を事を裏へ廻つて反古にする様なさもししい見は持つてるもんか。【六】

⇒「承知した」**小**／「約束した」**集**

『坊っちゃん』の全508組の言い換えの中で、原作と児童文庫版との内容の対応の有無にかかわらず、最も多く見られたのは、原作の「談判(する)」を別の動詞に言い換える例であった。作品中には、「談判(する)」という大仰な表現が多用され、「日清談判破裂して…」^{にっしんだんぱん はれつ}という当時流行した壮士の演歌の歌い出しも登場する。この「談判(する)」の言い換え表

現が、各児童文学叢書によって多彩であった（「談判（する）」の言い換えにとまなう意味変化については、11 節で説明する）。

7 児童文庫版への言い換えに伴う表現の差異 語種構成

『坊っちゃん』の原作と児童文学版の間で、意味が対応し、表現が異なる 508 組の動詞の言い換えペアの語種変換の組み合わせを見たところ、原作の和語動詞を別の和語動詞で言い換える例が 228 組で最も多く、半数近くを占めていた。表 1 に示す。表中には、原作の動詞に対し、2 パターン以上の異なる表現が対応する言い換えの用例を挙げた。

表 1 原作から児童文庫版への言い換えに伴う語種変換（単位：組）

原作→児童文庫	組	%	用例
和語→和語	228	44.88	・改める→出す／見る ・言い落す→言い忘れる／忘れる ・言う→おっしゃる／呼ぶ ・呑む→いやがる／こぼむ ・いらう→あせる／いらいらする ・入れる→入る／踏み入れる ・植え付け→差し込む／立てる ・受け取る→思う／考える ・躍り上がる→駆け上 がる／跳ね上がる ・かける→ひっかける／ぶらさげる ・駆ける→歩く／走る ・傾ける →かしげる／振る ・下る→行く／下がる ・加える→与える／付ける ・心得る→思う／ 考える／知る／わかる ・こしらえる→言う／ ・下げる→下す／くれる／出す ・渡ぐ→ 食べる／やる ・知る→見知る／わかる ・出す→差し出す／払う ・立つ→旅立つ／引っ 越す ・飛ぶ→困る／飛んでくる ・どやす→どつく／なぐる ・靡く→動く／ゆれる ・述べる→言う／話す ・呑み込む→決める／食べる ・乗る→教える／登る ・張る→は りとばす／ひっぱたく ・引き払う→移る／出て行く ・吹く→言う／ふるう ・凹ます→ やりこめる／言い負かす ・参る→行く／来る ・もたす→もたれる／寄りかかる／もたせ かける ・用いる→教える／使う ・やとう→乗る／拾う／頼む ・割り戻す→返す／戻す
漢語→和語	179	35.24	・往来する→歩く／行き来する／行き交う ・勧誘する→さそう／すすめる ・毀損する→ 落とす／やぶりこわす ・詰問する→せめただす／問いただす／問い詰める ・矯正する→ あらためる／直す ・仰天する→おどろく／びっくりする ・起立する→立ち上がる／立つ ・屈伏する→従う／凹む ・愚弄する→からかう／もてあそぶ ・口外する→言う／話す ・鼓吹する→教える／吹き込む ・使喚する→けしかける／そそのかす ・邪推する→考 える／勘ぐる ・出校する→行く／出てくる ・出立する→行く／引越す ・斟酌する→考 える／汲み取る ・煽動する→そそのかす／けしかける ・掃蕩する→取りはらう／なくし ていく／はらいのぞく ・退去する→帰る／たちのく／逃げる ・断念する→あきらめる／ やめる ・眺望する→眺める／見渡す ・顛倒する→変わる／ひっくり返る ・同行する→ 行く／来る ・杜絶する→絶やす／なくす ・拝見する→確かめる／見る／読む ・発議す る→言う／唱える ・判然する→はっきりする／わかる ・赴任する→行く／おもむく／や ってくる ・奮発する→おごる／かんばん／張り込む ・閉口する→困る／参る ・辟易す る→うんざりする／おじけづく／しりごみする ・翻弄する→からかう／ばかにする／もて あそぶ ・要撃する→襲う／迎え撃つ
漢語→漢語	49	9.65	・会釈する→遠慮する／容赦する ・許諾する→納得する／承知する ・検分する→検査す る／点検する ・周旋する→紹介する／せわする ・出頭する→出勤する／登校する ・断 行する→決行する／実行する ・論断する→断言する／判断する
和語→漢語	19	3.74	・受け合う→承知する／保証する／約束する
混種語 →和語・漢語	28	5.51	・案じる→考える／心配する ・応じる→合わせる／分かれる ・解す→わかる／理解する ・参じる→行く／参る ・復する→座る／着く／戻る ・弁じる→言う／しゃべる／話す／ 述べる／話し合う
その他	5	0.98	【混種語→混種語】 応じる→通じる 精出す→頑張る 【和語→混種語】 なる→演じる 【漢語→混種語】 出精する→頑張る／精出す
合計	508	100	

8 児童文学叢書でなぜ言い換えるのか 難易度（単語親密度）による検証

I 「時代差」（近代語対現代語）の言い換え表現を見ていく。前節で見た原作の『坊っちゃん』の動詞と、それを児童向けに言い換える 508 組について、言い換える前の原作の動詞（延べ数 508、異なり数 340）の難易度を測る尺度として、臼天野・近藤編（2003）による、語のなじみやすさを主観的評価の数値で示した「単語親密度」（0～7 段階）を用いて、現代の感覚でなじみが薄く、難しい語であるかどうかを検証した。表 2 に示す。

「単語親密度」とは、複数の被験者（18 歳以上 30 歳未満の男女 40 名）に対し、『新明解国語辞典』の約 8 万語の見出し語を 1（なじみがない）から 7（なじみがある）までの数値でたずね、その平均値を小数点以下 3 桁の数値で示したものである。「単語親密度」には、「文字」、「音声」、「文字音声」の 3 種の親密度がある。本稿では、「文字音声」と「文字」の親密度を見た（2008 年の増補版では、「文字単語親密度」のみが示されており、増補版に初収録の一部の語については、この「文字単語親密度」で判断した）。「単語親密度」の一覧に収録されていない『坊っちゃん』の動詞は、「寛仮する」、「慚死する」など 14 例がある。

「単語親密度」を尺度として見た場合、被験者の成人にとって、単語親密度の値が 7 に近ければ近いほど、親しみがあがり、難易度が低いと言える。また、単語親密度の値が 0 に近ければ近いほど、なじみが薄く、現代の一般成人の感覚として、難易度が高いと言える。

言い換え前の原作の動詞で、単語親密度が低かったのは、「誅戮」（1.375）であった。一方、言い換え前の原作の動詞で、単語親密度が高かったのは、「注意」（6.600）であった。

(35) 奥さんの御有りののに、夜遊びはおやめたがえゝぞなもと忠告した。そんな夜遊びとは夜遊が違ふ。こっちは天に代つて誅戮を加へる夜遊びだ。【十一】

⇒ 「成敗する」**小**

(36) 校長は何と思つたものか、暫らくおれの顔を見詰めていたが、然し顔が大分はれて居ますよと注意した。【四】

⇒ 「いった」**学**

表 2 「坊っちゃん」 言い換え前の原作の動詞 単語親密度の分布

単語親密度	原作の動詞				
	延べ		異なり		
	数	%	数	%	
なし	14		13		寛仮する 慚死する 行き尽す 射抜く 逐(お)っ放(ばな)す
0~1.999	5		4		誅戮する (1.375) 打擲する (1.750) 使喚する (1.812) 面詰する (1.969)
2~2.999	43	15.55 (79)	23	14.12 (48)	斟酌する (2.031) 杜絶する (2.406) 毀損する (2.438) 掃蕩する (2.562) 出精する (2.562) 逗留する (2.625) 論断する (2.656) 靡く (2.688) 軽侮する (2.844) 鼓吹する (2.844) 要撃する (2.844) 処決する (2.875) 周旋する (2.906) 縦覧する (2.906)
3~3.499	17		9		号する (3.031) 辟易する (3.062) 出立する (3.312) 邪推する (3.344) 割り戻す (3.344) 恐悦する (3.406)
3.500~3.999	26		16		起き直る (3.500) 検分する (3.531) 出校する (3.688) こしらえる (3.719) 言い落す (3.750) 呈する (3.781) 愚弄する (3.844) 判然する (3.875) 扇動する (3.938)
4~4.999	118		73		否む (4.031) 発議する (4.062) 吹聴する (4.062) 復する (4.094) 弁じる (4.219) 履行する (4.219) 解す (4.250) 屈伏する (4.406) 参じる (4.406) 退校する (4.438) 談判する (4.438) 翻弄する (4.469) 放免する (4.500) 登用する (4.531) 加勢する (4.562) 詰問する (4.562) 受け合う (4.594) 躍り上がる (4.594) 凌ぐ (4.594) 断行する (4.625) さす (4.812) 閉口する (4.906) どやす (4.938) 狼狽する (4.969)
5~5.999	227	84.45 (429)	161	85.88 (292)	口外する (5.000) 往来する (5.031) 揮う (5.031) 眺望する (5.062) 掲げる (5.094) 奮発する (5.094) 植え付ける (5.125) 呑み込む (5.156) もたす (5.156) 案じる (5.219) 出頭する (5.219) 引き払う (5.219) 免職する (5.219) 矯正する (5.281) 授ける (5.312) 退去する (5.312) 在学する (5.375) おぶさる (5.406) 駆ける (5.406) 会釈する (5.406) 同行する (5.406) 赴任する (5.406) かける (5.438) 心得る (5.438) 傾ける (5.469) なる (5.469) 加盟する (5.500) 参る (5.500) 応じる (5.594) 合併する (5.625) 勘定する (5.625) 控える (5.625) 起立する (5.656) 下る (5.656) 顛倒する (5.656) 張る (5.688) 仰天する (5.719) 受け取る (5.750) 拝見する (5.750) 用いる (5.781) 雇う (5.781) 勧誘する (5.821) 改める (5.875) 下げる (5.875) 上げる (5.906) 断念する (5.938) 述べる (5.594) 入れる (5.969) 吹く (5.969)
6~6.999	58		42		加える (6.094) 立つ (6.156) 取る (6.188) 作る (6.219) 打つ (6.281) 出す (6.281) 受ける (6.312) 認める (6.344) 言う (6.375) 乗る (6.438) 飛ぶ (6.469) 知る (6.469) 出る (6.500) 注意する (6.600)
計	508		340		

ここでは、単語親密度の平均値 3.5 を基準に、3.500 未満の動詞と 3.500 以上の動詞に分けて考えたい。「辟易する (3.062)」、「出立する (3.312)」、「邪推する (3.344)」などの単語親密度が 3.500 未満となった動詞と、「寛仮する」などの単語親密度のない動詞 14 例を合計すると、異なり数 48・延べ数 79 となり、全体の約 15% を占める。そして、残る約 85% 以上が単語親密度の比較的高い動詞となり、その高低にかかわりなく、親密度が低く、難易度が高い原作の動詞も児童向けに言い換えていた。よって、単語親密度が 3.500 未満となった異なり数 48・延べ数 79 の動詞 (単語親密度のない 14 例を含む) については、原作が書かれた「近代」と「現代」の児童に合わせてリライトされたという I 「時代差」が要因となって、

現代の一般成人にとっても、また、児童にとっても難しいとされる動詞を言い換えた例と見なして線引きをし、残る異なり数 292・延べ数 429 の動詞については、Ⅱの「年齢差」やⅢの「時代差」や「年齢差」によらない要因によって言い換えたものと考えることができる⁶⁾。

9 児童文学叢書でなぜ言い換えるのか 難易度（教育基本語彙）による検証

次に、単語親密度が 3.500 以上で、一般成人にとって親密度が比較的高いとされる『坊っちゃん』の原作の言い換える前の動詞（異なり数 292・延べ数 429）について、国立国語研究所（2009）の「教育基本語彙」、工藤（1999）の児童生徒のための「基本語彙」、甲斐・松川（2011）の光村図書の国語教科書の「学習基本語彙」、以上 3 種の児童を対象とする教育基本語彙のレベルを手掛かりに、その難易度を調査した。これにより、Ⅱの「年齢差」、つまり「児童にとって未習で、難しい語であるから、言い換える」動詞であるかどうかを判定した。

まず、国立国語研究所（2009）の「教育基本語彙データベース」内の「語彙配当」（低学年・高学年・中学校）を用いて動詞の難易度を見た。「語彙配当」とは、阪本一郎（1958）『教育基本語彙』・阪本一郎（1984）『新教育基本語彙』・国立国語研究所（1984）『日本語教育のための基本語彙調査』など計 7 種の教育基本語彙が示すレベル（学習段階）をまとめたもので、小学校低学年の語を 1、高学年の語を 2、中学校の語を 3 としている。「阪本基本語彙」・「新阪本基本語彙」には、小学校第 1～第 3 学年の A、小学校第 4～第 6 学年の B、中学校の C という 3 つの学習段階があり、それらの優先順位を表す数字（A が A1 と A2、B が B1～B3、C が C1～C4）がある。ここでは、優先順位の高い語を「よりやさしい語」と見なす（A1 が最もやさしく、C4 が最も難しい）ことで、より細分化された難易度を測ることができる⁷⁾。ここで、「教育基本語彙データベース」内に含まれない語は、「級外」の語とした。そして原作と児童文庫版それぞれに計 4 段階の難易差のレベルを付与していった。データベース内に記述のない、「零落する」・「論断する」などの語の場合、便宜的に中学校レベルよりも難しい語と位置付けた。表 3 にその結果を示す。

「語彙配当」によるレベル分けで、最も多く見られたのは、「小学校低学年」の動詞で、「小学校高学年」、「中学校」と続く。ここでは、「中学校」レベルの延べ数 119・異なり 71 の動詞、「小学校高学年」レベルの延べ数 121・異なり数 83 の動詞については、書き手の成人にとっては難しくないが、読者の児童にとって、既習ではなく、難易度が高いため、言い換えたものと判断できる。

その上で、「小学校低学年」レベルとされた延べ数 148・異なり数 108 の動詞については、甲斐・松川（2011）に所収の「学習基本語彙一覧表」（光村図書が独自に選定した小学生が学ぶ約 3,300 語とその初出箇所と頻度）に含まれるか否か、また、工藤（1999）の外国人児

表 3 『坊っちゃん』 言い換え前の原作の動詞 国立国語研究所 (2009) の「語彙配当」の分布

教育基本語彙		原作の動詞										
		延べ		異なり								
語彙配当	阪本	数	%	数	%							
「語彙配当」なし		41	9.56	26	9.03	言い落す 発議する	否む 弁じる	起き直る 翻弄する	解す もたす	参じる	出校する	どやす
中学校	C4	14		6		検分する	放免する	狼狽する				
	C3	15		12		詰問する	呈する					
	C2	44	27.74 (119)	22	24.65 (71)	矯正する 退去する	屈伏する 顛倒する	愚弄する 登用する	口外する 吹聴する	凌ぐ 奮発する	扇動する 履行する	
	C1	46		31		加盟する 判然する	勧誘する 復する	出頭する 赴任する	断行する 免職する	断念する	眺望する	
小学校 高学年	B3	12	28.21 (121)	9	28.82 (83)	仰天する	退校する	引き払う				
	B2	33		21		受け合う	在学する	談判する	同行する			
	B1	75		52		案じる 合併する 揮う	応じる 起立する 閉口する	述べる 起立する 認める	会釈する 心得る	往来する 授ける	掲げる 拝見する	加勢 控える
	なし	1		1		抜かす						
小学校 低学年	A2	21		16		植え付ける	受け取る	躍り上がる	呑み込む			
	A1	126	34.50 (148)	91	37.50 (108)	上げる かける える ぶ	改める 駆ける 下げる 取る	言う 傾ける さす なる	入れる 勘定する 知る 乗る	受ける 下る 出す 張る	打つ くわえる 立つ 作る	おぶさる こしら 出る 飛 雇う
	なし	1		1		入り込む						
	計		429		288							

童生徒が日本の小中学校（特に小学校）ではじめに学習すべき基本的な語彙として選び出された「リスト 7」（計 2,410 語）に含まれるか否かによって、さらに選別を加えた。「リスト 7」の語句は、国立国語研究所（1984）『日本語教育のための基本語彙調査』をはじめとする 6 種の資料の共通度から導いたもので、3 種以上の資料に共通する 1,755 語＋子ども用資料 4 種のうち、2 種に重複する 655 語の計 2,410 語が望ましいとされる。調査の結果、「躍り上がる」・「植え付ける」・「おぶさる」・「勘定する」など 29 例が国立国語研究所（2009）の「語彙配当」で「小学校低学年レベル」とされる語であるが、甲斐・松川（2011）の「学習基本語彙」と工藤（1999）の「リスト 7」の 2 種の教育基本語彙にも含まれていないことがわかった。

(37) どうするか見ると、寝巻の儘宿直部屋を飛び出して、梯子段を三股半に二階迄躍り上がった。【四】

⇒ 「はねあがった」**小** / 「かけあがった」**学**

(38) もう大抵御揃でせうかと校長が云ふと、書記の川村と云ふのが一っ二つと頭数を勘定して見る。

【六】

⇒ 「数えて」**集**・**小**

一方で、「リスト 7」には現れなかったが、光村図書の「学習基本語彙一覧表」には収録

される動詞（「遠慮する」・「取り扱う」・「ぶつける」・「雇う」）、反対に光村図書の「学習基本語彙一覧表」には現れなかったが、「リスト7」に収録される動詞（「浸かる」・「泊める」・「睨む」・「吹く」）があった。よって、これら2種の教育基本語彙のいずれか一方の資料に見られた例を除外し、最終的に得られた異なり数84の動詞を、Ⅲ「一般成人にとっても児童にとっても難しくないが、児童向けに言い換えた動詞」として導き出した。その原作の動詞の例は、以下の通りである。

仰ぐ・上げる・あたる・改める・ある・言う・行く・戴く・いる・入れる・伺う・受け取る・受ける・打つ・売る・遠慮する・お話しする・返す・かく（掻く）・かける（掛ける／懸ける）・駆ける・傾ける・塊める（かためる）・考える・聞く・下る・来る・加える・見物する・こしらえる・応える・断る・下げる・さす（差す／指す）・死ぬ・しまう・承知する・知らせる・知る・出す・畳む・立つ・立ち上がる・注意する・注文する・頂戴する・使う・浸かる・付く・作る・つける（付ける）・出る・飛び出す・飛ぶ・泊める・取り扱う・取る・なる・睨む・乗せる・飲む・乗る・入る・働く・放す・跳ねる・張る・腫れる・吹く・塞ぐ・ぶつ・ぶつける・増やす・放る・参る・廻す・周る・見る・持つ・もむ・雇う・やる・寄る・割れる

Ⅲのような、時代差や年齢差によらない、語句の難しさを理由としない言い換え例が存在することから、このことが原作の動詞の難易度を下げて言い換えることが必ずしも児童文学版のやさしさ・わかりやすさを担保するものではないことの根拠となるだろう。

10 「時代差」・「年齢差」によらない児童文庫版の言い換えの理由

前節までに、『坊っちゃん』の原作で言い換える動詞のタイプごとの選定を行い、複数の過程を経て、「児童にとってやさしく、理解可能でありながら、児童向けに言い換える」原作の動詞を抽出することができた。異なり数84のこれらの動詞は、Ⅱの単語親密度が高く、Ⅱの教育基本語彙で低学年レベルとされ、語句自体がやさしいとされる動詞であるが、読者の児童が文脈の中で意味を把握しようとする際に、児童の理解を妨げる何らかの事態が生じて、児童向けに読みやすく、わかりやすく言い換えたものと推測される。では、児童向けに言い換えたこれらの動詞は、原作の作品世界（動詞の意味内容や語感）を過不足なく伝えているのだろうか。ここからは、語を意味的に体系づけて分類した国国立国語研究所（2004）の『分類語彙表』を用いて、『坊っちゃん』の原作の言い換え前の動詞と、児童文庫版の動詞の分類番号の数値を照合することで、言い換えに伴う意味の差異の有無を見ていく。「分類語彙表」の分類番号は、分類番号の表す意味的範疇がより広い概念から順に「類」、「部門」、「中項目」、「分類項目」とあり、さらに下位に段落番号がある。それらの桁数が一致すれば、同じ意味範囲内の語であると説明できる。「分類項目」内も意味の広い上位語から順に並んでおり、例えば、仔細な意味の差異を表現し分ける原作に対し、児童文庫版でその動詞が表す動きを単純化して示すといったことが分類番号の数値の上から確認できる。一例と

して、原作の動詞「改める」・「駆ける」・「こしらえる」とそれを児童向けに言い換えた動詞の親密度や難易度の結果を図 3 に示す。

図 3 III 「時代差・年齢差によらない言い換え」の原作と児童文庫版の動詞の㉠～㉢の指標による分析

	語種	単語親密度	教育基本語彙			『分類語彙表』の分類番号
			語彙配当	光村	児童	
改める	和語	5.875	低学年	○	—	【2.15 作用】 2.1500 作用・変化 【2.30 心】 2.3065 研究・試験・調査・検査など
確認する	漢語	6.312	中学生	○	○	【2.30 心】 2.3062 注意・認知・了解
出す	和語	6.281	低学年	○	○	【2.12 存在】 2.1210 出沒
見る	和語	6.562	低学年	○	○	【2.30 心】 2.3065 研究・試験・調査・検査など
駆ける	和語	5.406	低学年	○	○	【2.15 作用】 2.1522 走り・飛び・流れなど
歩く	和語	6.594	低学年	○	○	【2.15 作用】 2.1522 走り・飛び・流れなど
走る	和語	6.312	低学年	○	○	【2.15 作用】 2.1522 走り・飛び・流れなど
こしらえる	和語	3.719	低学年	○	—	【2.30 心】 2.3071 論理・証明・偽り・誤り・訂正など
言う	和語	6.375	低学年	○	○	【2.31 言語】 2.3100 言語活動
立(建)てる	和語	5.688/5.969	低学年	○	○	【2.12 存在】 2.1220 成立

(39) 夫から口をあけて壺門札を改めたら茶色になつて模様が消えかゝつていた。【一】

⇒「出してみたら」**集**・「出してみると」**小**／「確認してみると」**角**／「見たら」**学**

(40) こん畜生と起き上がつて見たが、馳けられない。【四】

⇒「走れない」**集**・**角**／「歩けない」**学**

(41) 只手車へ乗つて、立派な玄関の家をこしらへるに相違ないと云つた。【一】

⇒「たてる」**学**

(42) 君が取り合はないで儲けがないものだから、あんな作りごとをこしらへて胡魔化したのだ。【九】

⇒「いったのだ」**学**

(39) は、「態度を改める」・「ルールを改める」などが中心的な意味であり、「一円札を改める」が周辺の意味である。児童文庫版の書き手は、この「改める」という語句の抽象性や多義性を鑑みて、登場人物の視覚的で具体的な動作の「見る」や「出す」で表現し、作品の場면을的確にかつ臨場感をもって伝えようとしている。また、(41)・(42)「こしらえる」は、「弁当をこしらえる」とすればなじみがあるが、「こしらえる」の目的語に「家」や「作りごと(うその話)」を置く例は比較的少なく、イレギュラーである。「こしらえる」の語義は変わらなくとも、前に来る語句との組み合わせを読者の児童が見聞きしたことがなく、理解が難しいと判断して言い換えたものと思われる。

ここで、原作の「III 現代語であり、児童にも理解できる語」(異なり数 84 の動詞)と、それを児童向けに言い換えた延べ 121 組の言い換えペアについて、㉢の『分類語彙表』で分類番号の一致度(類似度)を見たところ(表 4)、40% 近くが意味をほぼ同じくする「分類番号が一致」するものであった。

また、「中項目が一致」(意味分野を同じくするもの)も 20% 以上あり、以上のことから、

表4 III 「時代差・年齢差によらない言い換え」の原作と児童文庫版で対応する「分類語彙表」の分類番号の一致

	数	%	
「分類番号」が一致	44	36.36	・仰ぐ→敬う (2.3021) ・言う→おっしゃる (2.3100) ・入れる→踏み入れる (2.1532) ・何う→聞く (2.3093) ・打つ→ぶつ (2.1561) ・掛ける→ぶらさげる (2.1513) ・駆ける→歩く (2.1522) ・傾ける→かしげる (2.1513) ・考える→思う (2.3061) ・下る→行く (2.1527) ・加える→付ける (2.1580) ・見物する→見る (2.3091) ・死ぬ→亡くなる (2.5702) ・しまう→終える (2.1503) ・承知する→納得する (2.3062) ・知る→見知る (2.3062) ・出す→差し出す (2.1531) ・立つ→出発する (2.1521) ・立ち上がる→起き上がる (2.3391) ・頂戴する→いただく (2.3770) ・浸かる→入る (2.1532) ・付く→くつつく (2.1560) ・取り扱う→扱う (2.3852) ・飲む→食べる (2.3331) ・張る→ひっぱたく (2.1561) ・ぶつ→たたく (2.1561) ・増やす→上げる (2.1580) ・参る→行く (2.1527) ・見る→見張る (2.3091) ・もむ→つかむ (2.3392) ・割れる→切れる (2.1571)
「中項目」が一致	26	21.49	・あたる (2.1561) →着く (2.1521) ・改める (2.3065) →確認する (2.3062) ・受け取る (2.3062) →思う (2.3061) ・受ける (2.1513) →広がる (2.1524) ・遠慮する (2.3041) →気遣う (2.3020) ・返す (2.1526) →回す (2.1511) ・聞く (2.3132) →言う (2.3100) ・応える (2.3001) →参る (2.3014) ・断る (2.3123) →書く (2.3151) ・さす (2.1532) →出す (2.1531) ・下げる (2.1526) →出す (2.1531) ・知らせる (2.3123) →言う (2.3100) ・畳む (2.1570) →しまつする (2.1503) ・作る (2.3801) →練る (2.3851) ・出る (2.1521) →出勤する (2.1527) ・脱む (2.3066) →眺める (2.3091) ・入る (2.3700) →求める (2.3711) ・放す (2.1522) →抜く (2.1504)
一致なし	32	26.45	・いただく→かぶる ・かためる→まとめる ・こしらえる→たてる ・立てる→言う ・注意する→言う ・注目する→言う ・使う→言う ・付ける→続ける ・泊める→とどめる ・取る→上がる ・並べる→言う ・乗せる→だます ・乗る→登る ・跳ねる→取り上げる ・腫れる→膨れる ・吹く→言う ・雇う→頼む
「分類番号」なし	19	15.70	・上げる→釣り上げる ・行く→ついていく ・売る→たたく売る ・かく(掻く)→かっ切る ・来る→飛んで行く ・飛び出す→いる ・飛ぶ→飛んでくる ・塞ぐ→立ち塞ぐ ・ぶつける→打ち付ける ・放る→放り投げる ・寄る→寄り集まる
計		121	

言い換え前の『坊っちゃん』の原作の動詞と言い換え後の児童文学版の動詞の6割近くが語義が対応する動詞であることがわかった。「分類番号が一致なし」や「分類番号なし」の例では、「入れる→踏み入れる」や「掛ける→ぶらさげる」、「張る→ひっぱたく」、「掻く→掻っ切る」など、原作の動詞に複合動詞の前項部分や無意味形態素を付加し、詳述していたのも特徴的である。

読み手の児童にも理解可能とされる動詞を、児童文庫版でなぜわざわざ言い換えるのか。その理由は、一般成人が読者となる原作は、読み手の想像力の動員を期待し、多義的な語で簡素な描写にとどめるのに対し、児童向けの表現は、子どもが作品世界のイメージを膨らませる手助けとなるようにと、具体的な描写で詳述するなどして、語のやさしさよりも描写の正確さを優先させ、読みやすく、わかりやすくしたものと思われる。

11 児童文学版における特徴的な動詞の言い換え—「談判する」を例に

『坊っちゃん』の原作の全ての章に登場した動詞と、5種の児童文学叢書で言い換えた動詞の組み合わせの中で最も多かったのは、「談判(する)」で言い換える例であった。「談判(する)」の言い換え表現は、それぞれの児童文学叢書で多様に言い換えていた。

原作の表現 談判(する)	児童文庫版の言い換え表現 掛け合う 話し合う 交渉する 問いつめる 問答する 話を始める 話をつける 決着をつける 強く言う 行く 話す 打ち合わせを始める
------------------------	--

『類語国語辞典』によると、「談判」とは、「相手と論じ合って強硬に交渉し決着をつけること。掛け合い」の意の「日常語」で、一般的で用法が広い「交渉」とは異なり、「最も強硬でけんか腰の感じが伴う」とある。「談判する」を言い換えた7の動詞の曰～国の指標による分析結果を以下の図4にまとめた⁸⁾。

図4 原作の動詞が「談判する」と児童文庫版の動詞の曰～国の指標による分析

	語種	単語親密度	教育基本語彙		『分類語彙表』の分類番号
			語彙配当	光村 児童	
談判する	和語	4.438	高学年	— —	【2.35 交わり】「2.3531-03 交渉」
言う	和語	6.375	低学年	○ ○	【2.31 言語】「2.3100-01 言語活動」
行く	和語	6.375	低学年	○ ○	【2.15 作用】「2.1527-13 往復」
話し合う	和語	6.062	低学年	○ ○	【2.31 言語】「2.3131-01 話・談話」 「2.3133-01 会議・論議」
掛け合う	和語	4.406	なし	— —	【2.35 交わり】「2.3531-03 交渉」
交渉する	漢語	5.875	高学年	○ —	【2.35 交わり】「2.3531-03 交渉」
問答する	漢語	5.312	高学年	— —	【2.31 言語】「2.3132-01 問答」
問いつめる	和語	5.625	高学年	— —	【2.36 待遇】「2.3682-06 賞罰」

『坊っちゃん』の原作の前後の文脈を踏まえると、児童文庫版の「談判する」の言い換えは、作品中の「談判」の相手(対象)や場面、その時の心情に応じて、様々な表現となっている。以下の「談判する」の言い換え表現を見てみよう。

(43) 六人だらうが、十人だらうが構ふものか。寝巻の儘腕まくりをして談判を始めた。【四】

⇒「言ってやった」**角**／「問いつめる」**学**／「話をはじめた」**集・小**

(44) おれはこんな腐つた見の奴等と談判するのは胸糞むなごぼが悪るいから、【四】

⇒「話をする」**集**／「話しあう」**角・小**

(45) おれは教頭に向つて、まだ誰にも話さないが、是から山嵐と談判する積だと云つたら、【六】

⇒ 「決着をつける」**集・小** / 「話しあう」**角** / 「話す」**学**

(46) 校長へ二度、赤シャツへ一度行つて談判して見たが、どうする事も出来なかつたと話した。【九】

⇒ 「交渉してみたが」**集・小** / 「かけあってみたが」**角**

(47) 又校長に談判すると、あれより手続きのしやうはないのだと云ふ答だ。【十一】

⇒ 「掛(か) けあうと」**角** / 「強くいうと」**小**

(48) それぢや私が一人で行つて主筆に談判すると云つたら、それは行かん、君が談判すれば又悪口を書かれる許りだ。【十一】

⇒ 「交渉する」**集・小**

⇒ 「行(い) けば」**集**

「掛けあう」**角**

「掛けあったら」**角**

「交渉すれば」**小**

(49) おれが玉子をたゞきつけて居るうち、山嵐と赤シャツはまだ談判最中である。【十一】

⇒ 「問答の最中」**集・小**

⇒ 「話し合いの最中」**角**

(43) 「談判を始めた」(「言つてやる」・「問いつめる」で言い換え)の「談判」の相手は、中学の寄宿生三人である。寝床にバツタを入れた生徒を叱る場面であり、「言つてやる」よりも「問いつめる」には、生徒に対する怒りが込められており、意を決して生徒との対決が今まきに行われるという緊迫感も伝わってくる。

(44) 「談判するのは胸糞が悪いから」(「話し合う」・「話をする」で言い換え)の「談判」の相手＝「腐つた了見の奴等」は、中学の生徒であり、生徒に対し、怒りを鎮め、穏便に対応したことを思わせる「話し合う」がこの場面の表現として適当であろう。

(45) 「これから山嵐と談判するつもりだ」(「話し合う」・「決着をつける」で言い換え)の「談判」の相手は、同僚の「山嵐」である。「決着をつける」とすれば、『類語国語辞典』の記述とも重なり、山嵐との激しい論じ合いを経て決着をつけるという結果の部分を取り出して表現したと言える。

(46) 「校長へ二度、赤シャツへ一度行つて談判してみた」(「交渉する」・「掛け合う」で言い換え)の「談判」の相手は、「校長」と教頭の「赤シャツ」である。うらなりの転勤の辞令の撤回を求めて校長や教頭をお願いに上がる場面であり、「交渉する」・「掛け合う」ともに適している。

(47) 「また校長に談判すると」(「掛け合う」・「強く言う」で言い換え)の「談判」の相手は、「校長」であり、校長が新聞社に記事の取消を依頼したはずが、記事の訂正も取消もなかったため、坊っちゃんが校長に催促する場面であり、要求を受け入れない相手に話を持ち出す意の「掛け合う」よりも感情を抑えて「強く言う」の方が適当だろう。

(48) の「談判」の相手は、主筆(新聞社の編集長)である。坊っちゃん自身が一人で新聞社に乗り込み、編集長に抗議するという固い決意を語る場面であり、「交渉する」・「掛け合う」が適当である。「君が談判すれば」を「行く」と言い換えた場合、原作の『坊っちゃん』

ん』に笑いを生み出す表現効果の「同語反復」を避けることになるが、ここでは、読者の児童が理解しやすいように、新聞社へ「行く」という、人間の具体的な行動を伴い、視覚化できる表現を選んだものと思われる。

(49)「談判最中である」は、「山嵐」と「赤シャツ」が口喧嘩をして互いに言い争いをする様子を描いている。「話し合い」の穏やかな空気は感じられず、「問答」が適当である。

12 まとめ

本稿は、『坊っちゃん』の原作と複数の児童文学叢書の種々の言い換え表現を比較し、原作の表現に対し、幾通りもの表現で書き分ける動詞の例を取り上げ、なぜ原作の動詞を児童向けに言い換えるのか、『坊っちゃん』の児童文学叢書の読みやすさとわかりやすさ、親しみやすさの要因を探っていった。分析の結果、『坊っちゃん』のような近代文学作品を、現代の児童の心をひきつける表現にするためには、作品の「時代的差異」と、作品が対象とする読者の年齢差をもたらす「位相差」の2つの側面が相互に関わり合い、語句の言い換えがなされ、児童向けの『坊っちゃん』が形作られることがわかった。こうした時代差や位相差に配慮した言い換えが、原作と同時代に書かれ、児童向けとされる他の作品のリライトには見られない、児童文庫版『坊っちゃん』に特有の言い換え操作と言える。

当該の表現を読者の児童向けにリライトする際には、単に難易度を下げて、やさしくするのはなく、同じ言い換えでもその方向性や目的が異なることが明らかになった。また、分析を通し、読者の児童のために、あえて難しい語句を選択して、的確な言い換え表現で伝えようとする書き手の工夫も見て取れた。一方で、児童向けに表現を簡素化させて言い換えることで、原作の微妙なニュアンスやユーモアが児童に伝わらないという事態も生じていた。

原作に別の書き手が手を入れ、表現をリライトし、解釈を加えた時点で、原作の作品の世界をそのまま伝えることが不可能となる。原作を改変することの是非が問われる反面、児童向けのリライト作品を読み、作品に親しみを覚え、いつか児童が成長して自ら原作を手にする日が来るだろう。『坊っちゃん』の原作の言い換えは、児童が百年前の名作に出会うきっかけを与えている。『坊っちゃん』の原作の作品世界をできる限り損ねることなく、読者の児童の元に届けるために、言語表現上のどんな工夫が求められるのだろうか、分析を重ねたい。

謝辞

本稿は、第218回青葉ことばの会発表（「児童文庫版『坊っちゃん』に見るパラフレーズ」）、第158回表現学会東京例会発表（「児童文庫版『坊っちゃん』の言い換え表現のバリエーションと読みやすさの要因」）の内容をまとめたものです。両発表で貴重な御意見を頂戴した多くの先生方に

この場を借りて厚く御礼申し上げます。

参考文献

- 天野成昭・近藤公久編著／NTT コミュニケーション科学基礎研究所監修（2003）『日本語の語彙特性』三省堂
- 大野晋・浜西正人（1981）『角川類語新辞典』角川書店
- 大野晋・浜西正人（1985）『類語国語辞典』角川書店
- 甲斐睦朗監修・松川利広（2011）『語彙に着目した授業をつくる 小学校国語』光村図書出版
- 工藤真由美（1995）『児童生徒に対する日本語教育のための基本語彙調査』ひつじ書房
- 国立国語研究所（2004）『分類語彙表 増補改訂版』大日本図書
- 国立国語研究所（2009）『教育基本語彙の基本的研究 増補改訂版』明治書院
- 今野真二（2016）『リメイクの日本文学史 リライトの日本文学史』平凡社新書
- 田中章夫（1999）『日本語の位相と位相差』明治書院
- 中村明（1993）『日本語の文体 文芸作品の表現をめぐって』岩波書店
- 中村明（2013）『吾輩はユーモアである—漱石の誘笑パレード』岩波書店
- 成田徹男（2008）「夏目漱石『坊っちゃん』の文字表記と語種 -- カタカナの使用法をめぐって（その1）」『名古屋市立大学大学院人間文化研究科人間文化研究』10号
- 成田徹男（2009）「夏目漱石『坊っちゃん』の文字表記と語種 -- カタカナの使用法をめぐって（その2）」『名古屋市立大学大学院人間文化研究科人間文化研究』11号
- 湯浅千映子（2009）「小学生新聞の言い換え操作 一動詞を対象に一」『日語日文学研究』70号 韓国日語日文学会 pp.179-197
- 湯浅千映子（2010）「小学生向け文章の書き分けの諸相—携帯電話の取扱説明書を資料に一」『日本語・日本語教育研究』1号 日本語・日本語教育研究会 pp.245-265
- 湯浅千映子（2015）「受容年齢層による動詞使用の差異：海外文学の日本語訳の場合」『埼玉大学日本語教育センター紀要』3号 pp.17-27
- 湯浅千映子（2016）「小学生新聞の受容年齢層による動詞の書き分け：類義性と難易度の連関」『語彙研究』13号 語彙研究会 pp.58-66
- 湯浅千映子（2016）「読み手の年齢差による海外文学の訳し分け：立間祥介訳『聊齋志異』の日本語訳」『埼玉大学紀要 教養学部』51巻2号 pp.361-371
- 湯浅千映子（2017）「読み手の年齢差による翻訳小説の言い換え：平井呈一訳『怪談』の日本語訳」『埼玉大学紀要 教養学部』52巻2号 pp.353-363
- 湯浅千映子（2017）「児童文庫版『坊っちゃん』の言い換え」『埼玉大学日本語教育センター紀要』5号 pp.39-49

註

- 1) 『漱石全集』の『坊っちゃん』の本文は、明治39年に雑誌『ホトトギス』で発表された際の原稿を底本とし、翻刻している。『坊っちゃん』の時代設定として、漱石が作品の舞台である愛媛県尋常中学校（松山中学）に赴任していた明治28年頃が有力であるとされる。
- 2) 『ポプラキミノベル』（2021年）の『坊っちゃん』、『岩波少年文庫』（2014年）の『坊っちゃん』は、読点や改行、現代仮名遣いや漢字をひらがなにするなどの表記の変更はあるが、語句の言い換えが見られず、調査対象としていない。また、『角川つばさ文庫』などの児童文学叢書

の中には、宮沢賢治『銀河鉄道の夜』や太宰治『走れメロス』などの近代の文壇作家の作品をリライトしたのものも存在するが、いずれも表記面の変更にとどまっており、複数の児童文庫叢書で原作と異なる言い換えがなされる『坊っちゃん』の特殊性が際立っている。

- 3) 今野 (2016:192) は、「少年少女は、同じ年代の友達だけではなく、いろいろな世代の人たちと接点を持ちながら、言語生活を送っているものであり、「大人の言語」にふれ、それを獲得していく必要がある。(中略)部分的に理解できない箇所があったとしても、おおよそをとらえることができればそれでよい、という考え方も成り立つだろう」としている。
- 4) 中村 (2013:8) では、「何かつるつる、ちゅうちゅう食つてた連中」、「どんどこ、どんのちやんちきりん」や「尻の下でぐちやりと踏み潰した」、「びくびくと糸にあたる」といったオノマトペの例も挙げていたが、調査した5種の児童文庫版ではこれらを言い換えず、オノマトペをそのまま用いていた。
- 5) 分析資料とした児童文学叢書中に見られた編集方針を以下に整理する。

『集英社みらい文庫』の編者あとがき 「わたしたちが坊っちゃんに会うには、二つの方法があります。ひとつは、坊っちゃんに来てもらうことです。今回、わたしはそのおてつだいをしました。といってもわたしは、文章を書くひとですから、じっさいにやったのは、やっぱり文章を書くことでした。けれども、それはたとえていえば、古くなってすすけてしまった絵に、うすいせんざいをぬり、なるべく傷をつけないように、そつとやわらかい筆でこすって、ゆっくりと水をかけて洗うような感じの作業でした」
『小学館ジュニア文庫』の編者あとがきの注 「読みやすさを考えて、現代かなづかいに改め、原文をそこなわない程度に漢字をひらがなにし、読点や、改行を増やしています。また、一部わかりやすい表現に言いかえています。中には、差別的な表現もありますが、当時の時代背景を考慮して、あえて原文をいかしています」
『角川つばさ文庫』の目次の注 「この作品は、(略)現代かなづかい、現代表記を改め、一部漢字をひらがなにしたり、用字を統一するなどの改稿をしてあります。さらに、現代の子どもたちに理解しやすいよう、作中表現を言いかえたり、一部の文をけずったりするなどの変更をおこないました。なお、本文中に、差別的と考えられる表現がありますが、時代的背景と作品価値を考えあわせ、原本のまま残したところがあります」
『10歳までに読みたい日本名作 学研プラス』の目次の注 「この本では、小学生が楽しめるように、現代語表記にし、一部の表現や文章をわかりやすく言いかえたり、省いたりしています」

- 6) 単語親密度が3.5未満となった動詞や単語親密度のない動詞(異なり数47・延べ数76)について、『角川類語新辞典』の語の「位相」の情報(「文章語」・「日常語」など)を調べたところ、以下の動詞が「文章語」であった。

誅戮する (1.375)・打擲する (1.750)・使喚する (1.812)・面詰する (1.969)・斟酌する (2.031)・零落する (2.344)・杜絶する (2.406)・毀損する (2.438)・掃蕩する (2.562)・論断する (2.656)・看過する (2.812)・鼓吹する (2.844)・要撃する (2.844)・軽侮する (2.844)・処決する (2.875)・縦覧する (2.906)・号する (3.031)・辟易する (3.062)・恐悦する (3.406)

また、以下の動詞が「日常語」とされていた。

引き移る(無)・へこます(無)・存じる(無)・申し合わせる(無)・反駁する (2.438)・敵う (2.531)・詰る (2.531)・逗留する (2.625)・靡く (2.688)・謹聴する (2.688)・誂える (2.844)・周旋する (2.906)・よす (3.219)・耽る (3.312)・出立する (3.312)・邪推する (3.344)・割り戻す (3.344)
--

- 7) 「阪本基本語彙」と「新阪本基本語彙」で付与されたレベルが異なる場合がある（例「浸かる」は、「阪本」でA1レベルであるが、「新阪本」でA2レベル）。この場合、より新しい「新阪本基本語彙」のレベルを優先させた。また、「阪本基本語彙」にも「新阪本基本語彙」にも見られなかったが、教育基本語彙データベースに収録され、語彙配当が付された語句もあり、本分析資料の場合、「入り込む」（小学校低学年レベル）、「抜かす」（小学校高学年レベル）が見られた。
- 8) 「談判する」の分類番号「2.3531-03 交渉する」に分類された他の語には、「直談判する」・「ねじ込む」・「談じ込む」・「駆け引きする」・「折衝する」・「掛け合う」・「持ち掛ける」・「交渉する」・「団交する」・「相対する」・「対決する」があった。

ENGLISH SUMMARY

Characteristic rewrite expression for children : Botchan by Natsume Sōseki

YUASA Chieko

This article shows a characteristic phenomenon observed in Natsume Soseki Botchan for children's reading series.

It showed a phase in which the language read by adults changed to the language read by children.

When modern children read the works of the Meiji era, they feel the readability and familiarity of the works.

The purpose of children's literature rewriting for children is not only to choose simple and easy-to-understand expressions for elementary school students, but also to convey the familiarity of the work.

Key words: Rewriting, Basic vocabulary for children, Word familiarity rates, Word List by Semantic Principles, Readability